

苦しみとは？

仏教の説く苦しみとはなんだろう？

病苦を中心に考えて見る

病苦とは何か？—四諦と病苦—

本発表は病苦の定義を考察するものである。

病苦は生老病死として四苦の一つ・・・それでは四苦とは何か？

苦諦、あるいは苦の内容とされる場合がある。

パーリ仏典の苦諦

苦聖諦とは、生もまた苦であり、老もまた苦であり、病もまた苦であり、死もまた苦であり、不快なものとかかわるのは苦であり、快いものと離れるのは苦であり、望んでいるものが手に入らないのは苦であり、略していえば、五取蘊は苦である。

ただしパーリ仏典でも苦諦、あるいは苦の内容は一定ではない。苦諦の定義は定型表現と見受けられるが、病苦は苦諦の定義からはずされている場合もある。

漢訳阿含

『大般涅槃經』 T1.195b17-22

有四聖諦、當勤觀察。一者苦諦、二者集諦、三者滅諦、四者道諦。

比丘、苦諦者、所謂八苦。一生苦、二老苦、三病苦、四死苦、五所求不得苦、六怨憎會苦、七愛別離苦、八五受陰苦。汝等當知、此八種苦及有漏法、以逼迫故、諦實是苦。

『中阿含經』 T1.435c26-28

云何知苦如眞。謂、生苦、老苦、病苦、死苦、怨憎會苦、愛別離苦、所求不得苦、略五盛陰苦。是謂知苦如眞。

『雜阿含經』 T2.126c26-29

云何爲苦。舍利弗言、苦者謂、生苦、老苦、病苦、死苦、恩愛別離苦、怨憎會苦、所求不得苦、略說五受陰苦。是名爲苦。

漢訳阿含では、苦諦の定義として四苦八苦をあげる場合が多く見受けられる。

アビダルマ文献

『法蘊足論』 T26.459a5-7

苦眞是苦。謂、正開示生苦、老苦、病苦、死苦、怨憎會苦、愛別離苦、求不得苦、略説一切五取蘊苦。

『法蘊足論』 T26.480a16-17

云何苦聖諦。謂、生苦、老苦、病苦、死苦、怨憎會苦、愛別離苦、求不得苦、略説一切五取蘊苦。

苦聖諦の定義として四苦八苦が挙げられている¹。

『集異門足論』 T26.392a17-19

云何苦聖諦。答、五取蘊。謂、色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊。是名苦聖諦。

『品類足論』 T26.718b21-22

苦聖諦云何。謂、五取蘊。

一方で苦諦を五取蘊とする定義も見受けられる。

『大毘婆沙論』の苦諦

苦諦の定義の諸相²

阿毘達磨諸論師	五取蘊は是れ苦諦
譬喩者	諸の名色は是れ苦諦
分別論者	若し八苦の相有りて是れ苦なるものは是れ苦諦にして、餘の有漏法は是れ苦なるも苦諦に非ず。

アビダルマ文献の諸相が反映され、いくつかの苦諦の定義が示されている。

病苦の内容

苦諦の内容が四苦八苦とされたときに、病苦の内容とは？

病苦の内容に言及する経論は多くはない。

¹ 『声聞地』も同様の定義が見える。T30.434c9-13「出世間道淨惑所縁復有四種。一苦聖諦、二集聖諦、三滅聖諦、四道聖諦。云何苦聖諦。謂、生苦、老苦、病苦、死苦、怨憎會苦、愛別離苦、求不得苦。略説一切五取蘊苦。名苦聖諦」

² 田中裕成「《婆沙論》における阿毘達磨論師と分別論師と譬喩師の四聖諦説」（『佛教大学大学院紀要. 文学研究科篇』47）において言及がなされている。

『中阿含經』象迹喻經 T1.467c22-468a4

病苦は何に起因するのか？病気とは、頭痛、眼の痛み、耳の痛み、鼻の痛み、顔の痛み、唇の痛み、歯の痛み・・・(中略) 発熱、出血、腹痛などである。もしこのような病気になって、楽になりたいという気持ちが湧いてくる。これが病気である。

病苦とは、病気になった時に、体に苦痛を受け気になってしまうことであり、心に苦痛を受け気になってしまうことであり、心身に苦痛を受け気になってしまうことである。また体が発熱し気になってしまうことであり、心が発熱し気になってしまうことであり、心身が発熱し気になってしまうことである。また体がひどく発熱し、煩わしく、あるいは気だるく、気になってしまうことであり、心がひどく発熱し、煩わしく、あるいは気だるく、気になってしまうことであり、心身がひどく発熱し、煩わしく、あるいは気だるく、気になってしまうことである。

病とは具体的な体の辛さであり、病苦とはそれに起因する心身の辛さ、煩わしさである。

アビダルマの病苦

迫られ悩ませられることが「病苦」であり、快適な状態を損ねるから「病苦」である。

このような病苦は他の苦とともに五蘊盛苦にまとめられる（五蘊は全て苦である）

ここにおいて無我、無常、苦が結びつく。（小サッチャカ経）

まとめ

病苦の具体的な定義は経論にそれほど多くみられないが、「痛」「病」とその症状が内容とされる。

『大毘婆沙論』はこれについて1 遍悩相と合するが故に「病苦」と名づけ、2 病は能く可愛の安適を損壊するが故に「病苦」と名づけ、と説いている。心身を悩ましめるもの、安穏な状態を損なうものと、されている。

具体的な病名や痛み、症状などを含め、心身を悩ますものを病としてとらえ、それに起因する苦が病苦であるといえよう。